

函 博

令和8年(2026年)3月31日

報道機関各位

市立函館博物館長

市立函館博物館館報の発行に係る報道について（依頼）

このことについて、下記のとおり市立函館博物館ホームページにおいて公開しましたので、取材・報道方よろしくお願いたします。

記

- 1 発行物名称
市立函館博物館館報『SARANIP』No.65
- 2 発行内容
別添 pdf 形式データのとおり
- 3 ホームページ
<http://hakohaku.com/top/research/saranip/>

（連絡先）

市立函館博物館

学芸担当：大矢

（電話 0138-23-5480）

—企画展開催報告—

知られざるオホーツク海先史文化紀行



企画展会場

市立函館博物館は、明治12年(1879年)に開館した北海道開拓使函館仮博物館を前身とし、明治初期から道内外のさまざまな文物を収集・展示してきました。特に明治期には日本の近代考古学の黎明期にあつて坪井正五郎博士が提唱した「原日本人＝コロポックル説」は、日本人のルーツを考えるうえで北方圏が大いに注目され、早くから千島列島や樺太に多くの研究者が訪れました。その中で函館出身の馬場脩氏や函館にゆかりのある児玉作左衛門氏は、道内のみならず千島や樺太で精力的に発掘調査を行い、その収集された貴重な数多くの資料が当館に寄贈されています。第二次世界大戦後に足を踏み入れることが極めて難しい北方地域で収集されたこれらの考古資料は、現在でも学術的に貴重な資料となっています。一方、北洋漁業の一大基地として栄えていた函館では、一般の人々からもオホーツク海沿岸で収集された出土品が博物館や図書館に寄贈され、今日の貴重なコレクションの一角を構成しています。

これらの資料は、部分的に一般公開されることはあっても、一堂に展示することはありませんでした。近年、北方圏の考古学研究の進展とともに当館所蔵資料の学術的価値が再評価されてきており、専門家の方々に指導、監修をいただきながらこのたびの企画展を開催しました。

展示資料はすべて当館所蔵品で構成し、オホーツク海周辺に生息する生き物のはく製や、樺太や千島をはじめ道内のオホーツク海周辺域の遺跡から出土した土器や石器、骨角器を中心に、縄文時代から続縄文文化期、擦文文化期やオホーツク文化など、遺跡別・地域別の展示とともに、動物信仰や大陸や本州との交易、装飾品、最後の土器文化となる内耳土器など、テーマ別の展示コーナーを設けました。

道南ではほとんど目にする機会のない、不毛と思われがちな北方圏の豊かな文化を示す資料を多数紹介することにより、興味深げにじっくりと見学している方が多くいました。

また、本企画展の開催中には企画展協力者である東京大学大学院の福田正宏教授および国立民族学博物館外来研究員の右代啓視氏による2回の講演会のほか、お二人および当館学芸員による展示解説セミナーを3回実施しました。

(福田 裕二)

一 収集・収蔵一

※令和8年3月31日現在

<https://hakohaku-archives.c.fun.ac.jp/>

収蔵資料概数一覧

※令和8年3月31日現在

分類	件数	点数
博物館史	455 件	1,709 点
地質鉱物	2,038 件	3,136 点
植物	11,331 件	11,354 点
動物	11,142 件	24,293 点
考古	12,165 件	585,910 点
歴史	6,907 件	25,023 点
民俗	7,939 件	23,131 点
民族	7,137 件	13,922 点
美術工芸	7,023 件	8,419 点
合計	66,137 件	696,897 点

■博物館史資料	28 件
■自然資料	1,105 件
■考古資料	895 件
■歴史資料	647 件
■民俗資料	377 件
■民族資料	474 件
■美術資料	802 件
合計	4,328 件

一 普及（展覧会）一

企画展



名称	知られざるオホーツク海先史文化紀行
期間	令和7年7月1日(火)～10月26日(日)
開館日数	118日間中98日
後援・協力	道南ブロック博物館施設等連絡協議会 他 計1機関3個人
出品協力	なし
出品資料	オホーツク式土器 他 計1,147点
観覧者数	6,302名
関連事業	・展示解説セミナー ・講演会「環オホーツクの一万年」 ・講演会「オホーツク文化からアイヌ文化」
担当	福田

※一部の寄託資料を含みます。
 ※一括資料は1件1点で計算しています。
 ※収蔵資料データベースの再整理を適宜実施しているため、
 数値が変動する可能性があります。
 ※北洋資料館・戸井町・恵山町の旧蔵資料は含みません。

令和7年度 新収蔵資料

- 物入れ 2件2点
【北斗市：信太 成子 氏 寄贈】
- 遺愛女子高等学校制服 他 2件5点
【函館市：高橋 陽子 氏 寄贈】
- 日露戦捷記念函館幼稚園写真 他 8件10点
【札幌市：河合 理子 氏 寄贈】
- 団扇 1件6点
【函館市：徳田 満 氏 寄贈】
- 在営記念函館重砲兵大隊第一中隊 1件1点
【兵庫県：西田 耕三 氏 寄贈】
- マッチラベル貼込帖 1件1点
【函館市：郷 ひろみ 氏 寄贈】
- 写真 1件10点
【釧路市：杉本 瑞穂 氏 寄贈】
- 鉱物標本 2件200点
【埼玉県：笠原 憲司 氏 寄贈】
- 渡邊熊四郎写真油絵 他 2件2点
【函館市：渡邊 政久 氏 寄贈】
- ネガ原板修正台 他 20件20点
【名古屋市：吉岡 直樹 氏 寄贈】
- 石器 1件70点
【函館市：堀川 きい子 氏 寄贈】
- 土器 1件1点
【函館市：近江 暁子 氏 寄贈】

※旧蔵資料登録および所管替え資料は掲載していません。

デジタルアーカイブ



企画展解説セミナーの様子

収蔵資料展

函館には明治期から日本酒やビールの醸造業者や、それらを販売する商店が立ち並んでいました。しかし市内の醸造業者は1960年代には見られなくなり、商店もその多くが1990年代を境に廃業・閉店していきました。本展では商店で販売されていた商品や販促グッズをはじめ、看板や色鮮やかなポスター等を展示し、昔懐かしい函館の風景を再現しました。



名称	酒は飲んでも飲まれるな 懐かしのお酒ディスプレイ
期間	令和7年11月3日(月)～令和8年3月31日(月)
開館日数	149日間中114日
後援・協力	なし
出品協力	函館市中央図書館
出品資料	五稜正宗広告 他 計66点
観覧者数	4,524名
関連事業	・お酒にまつわるお話し会
担当	内田

※令和8年度も継続

に携わるなど、函館および北海道の美術の発展に寄与した人物です。

本展では、池谷が函館を題材として取り上げた作品のうち16点を取り上げ、その画業を回顧する展示を行いました。



名称	池谷寅一展～画家の愛した函館～
期間	令和7年8月30日(土)～10月26日(日)
開館日数	58日間中48日
後援・協力	なし
出品協力	なし
出品資料	北国春光 他 計16点
観覧者数	3,110名
関連事業	なし
担当	高柳



収蔵資料展開催状況



ロビー展開催状況

ロビー展

池谷寅一（1902-1983）は、生涯のほとんどを過ごした函館で、仕事の傍ら絵画制作にいそしむ他、赤光社や北海道美術協会（道展）といった美術団体の創立

令和7年度展覧会開催状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
日	4/1～6/22		6/23～30	7/1～10/26			10/27～11/2	11/3～2026/3/31				
ロビー	ロビー展 「洞爺丸の悲劇から七十年」 担当：福田		全館 休館 展示 替え	ロビー展 「戦後80年 太平洋戦争と函館」 担当：大矢・内田 ※7/1-8/27		ロビー展 「池谷寅一展 ～画家の愛した函館～」 担当：高柳 ※8/30-10/26		常設展 「函館博物館史」 担当：大矢				
第1展示室	常設展 「はこだての歩み（通史）」 担当：大矢			常設展 「はこだての歩み（通史）」 担当：大矢				常設展 「はこだての歩み（通史）」 担当：大矢				
第2展示室	収蔵資料展 「函博コレクション ～HAKYO～蠣崎波警展」 担当：高柳			企画展 「知られざるオホーツク海先史文化紀行」 担当：福田				収蔵資料展 「酒は飲んでも飲まれるな 懐かしのお酒ディスプレイ」 担当：内田				
第3展示室	常設展 「箱館戦争」 担当：内田			常設展 「箱館戦争」 担当：内田				(半面閉鎖)				
				常設展 「箱館戦争」 担当：内田				常設展 「箱館戦争」 担当：内田				

常設展



名称	函館博物館史
期間	令和7年11月3日(月)～
開館日数	149日間中114日
後援・協力	なし
出品協力	函館市中央図書館 他計2機関
出品資料	函館水産陳列場揭示 他 計57点
観覧者数	4,524名
関連事業	なし
担当	大矢

※令和8年度以降も継続

市立函館博物館は、1879年に開場した開拓使函館仮博物館をその前身としており、国内でも最も古い博物館の一つといえます。これまでも第1展示室で博物館史に関する展示を一部展開していましたが、このたび会場をロビーに移して展示資料や解説パネルなどをより充実させ、常設展としてリニューアルしました。



函館博物館史展示状況

令和7年度入館状況

	常設展	企画展	合計
開催期間	4/1～6/22 11/3～3/31	7/1～10/26	4/1～3/31
開館日数	185日/232日	98日/118日	283日/365日
有料入館者	6,085人	5,483人	11,568人
無料入館者	5,214人	819人	6,033人
入館者合計	11,299人	6,302人	17,601人

令和8年度企画展開催予告

※展覧会名称および開催期間はいずれも予定

■企画展「さあ、お話しの世界へ！梁川剛一没後40年展」(7～11月)

梁川剛一(1902～1986年)は函館市に生まれ、高

田屋嘉兵衛像などの彫刻作品で知られるとともに、挿絵画家としても活躍。彫刻で培った造形感覚から生まれた、立体的で写実性に富み、躍動感あふれる描写は、多くの読者を魅了しました。没後40年を迎える2026年にあたり、その画業を回顧する展覧会を開催します。



トム・ソウヤーの冒険(表紙絵)

— 普及 (講座) —

市民団体との共催事業

小学生向け夏休み講座の一環として、道南地域で天体観望会を開催しているはこだて天文宇宙クラブとの共催により、「手作り天体望遠鏡で月を見よう」を開催しました。親子で簡易的な天体望遠鏡を手作りし、函館山の上に昇る月を函館公園内で観察しましたが、想像以上に綺麗に見えた月に、参加者からは歓声が上がりました。



手作りした天体望遠鏡で月を観察する参加者

協力機関等

市立函館博物館友の会、佐藤智雄、新田紀敏、はこだて天文宇宙クラブ、今金町教育委員会、函館市土木部公園河川管理課、喫茶想苑、中田弥幸、公益財団法人アイヌ民族文化財団、佐藤理夫、函館西警察署、川嶋稔夫(順不同・敬称略)

令和7年度 講座開催実績

【単講座】

No.	講座名	開催期日・時間	講師	参加/定員
1	旧函館博物館一号公開	5月25日	学芸員	61 / -
2	夏休み自由研究 「貝の標本をつくらう」	7月30日	外部講師	0 / 15
3	夏休み自由研究 「函館公園の花でミニチュア標本作り」	8月2日	外部講師	6 / 10
4	夏休み自由研究 「手作り天体望遠鏡で月を見よう」	8月3日	外部講師	15 / 15
5	夏休み自由研究 「黒曜石で石器をつくらう」	8月7日	外部講師	17 / 15
6	夏休み自由研究 「池のなかを見てみよう」	8月8日	大矢	20 / 20
7	夏休み自由研究 「身近なもので染めてみよう」	8月10日	高柳	11 / 10
8	夏休み自由研究 「夕泊川 歴史と自然観察ツアー」	8月16日	外部講師 大矢	15 / 15
9	夏休み自由研究 「和綴じ本をつくらう」	8月17日	内田	5 / 10
10	旧函館博物館一号公開	9月13日	博物館 実習生	278 / -
11	五稜郭探求 ～五稜郭と箱館戦争を検証する～	9月27日	外部講師	8 / 15
12	アイヌの女性用小刀 「メノコマキリ」をつくらう	10月12日	外部講師	8 / 10
13	秋の自然観察会	11月8日	外部講師	5 / 20
14	酒は飲んでも飲まれるな！ お酒にまつわるお話し会	11月9日	外部講師 大矢	17 / 20

No.	講座名	開催期日・時間	講師	参加/定員
15	千島アイヌのコイルリング技法で コースターをつくらう	11月22日	外部講師	5 / 6
16	デジタルでみる！ 博物館資料鑑賞会	12月7日	外部講師	99 / 140
17	冬休み自由研究 「ボンドでステンドグラス工作」	1月9日	高柳	7 / 10
18	学芸員こぼれ話① 「函館観光とアイヌ文化」	3月1日	大矢	8 / 15
19	学芸員こぼれ話② 「縄文文化あれこれ」	3月8日	福田	8 / 15
20	学芸員こぼれ話③ 「幕末函館の外国事情」	3月15日	内田	0 / 15
21	学芸員こぼれ話④ 「サムライ絵師 楊洲周延と「江戸風俗十二ヶ月」」	3月22日	高柳	5 / 15

計 598 / 391 名

【展示解説セミナー】

No.	講座名	開催期日・時間	講師	参加/定員
1	展示解説セミナー 企画展「知られざるオホーツク海先史文化紀行」	7月13日 9月6日	外部講師 福田	35 / -
2	展示解説セミナー 「博物館まると解説」	10月4日	福田・高柳・内田	14 / -

計 49 / 0 名

【おもてなし講座】

No.	講座名	開催期日・時間	講師	件数/人数
1	行ってみよう！博物館 「博見学のススメ」	随時 (休館日等を除く)	全学芸員	21 / 483

講師派遣等

- 北海道教育大学函館校地域プロジェクト「道南のアイヌの人々への地域支援」（6月13日）大矢
- 函館市シニア大学亀田校「知られざるオホーツク先史文化紀行」（8月26日）福田
- 函館市シニア大学青柳校「知られざるオホーツク先史文化紀行」（9月4日）福田
- はこだて検定合格者の会「道南の縄文文化」（9月17日）福田
- 函館市立巴中学校総合学習SDGs講話「アイヌの歴史と文化」（12月11日）大矢
- 北海道函館聾学校総合学習「アイヌの歴史と社会問題」（2月26日）大矢

一 調査・研究

調査・研究事業

- アイヌ施策推進地域計画策定等に係る調査（大矢）
- 次年度企画展調査（高柳）
- 市立函館博物館所蔵南方民族資料整理事業（大矢）
- 函館市内植物相調査事業（大矢）
- 国立アイヌ民族博物館所蔵資料調査（大矢）

研究論文・一般著述等

- 新田紀敏・大矢京右 2026 「市立函館博物館所蔵維管束植物標本の整理状況と菅原繁蔵コレクション

について」『市立函館博物館研究紀要』36:1-20, 市立函館博物館。

- 川井唯史・大矢京右・篠原陽・伊木亜子 2026 「市立函館博物館が所蔵するウップルイノリ *Pyropia pseudolineraris* (Bangiales, Rhodophyta) 標本と食文化」『市立函館博物館研究紀要』36:21-29, 市立函館博物館。
- 高柳美咲 2026 「〈資料紹介〉蠣崎波響筆「牡丹睡猫図」について」『市立函館博物館研究紀要』36:81-83, 市立函館博物館。

研究発表・講演等

- 大矢京右「辨開風次郎とピリカ会」, 公益財団法人アイヌ民族文化財団「令和7年度アイヌ文化公開講座キロロアン」（4月18日）
- 大矢京右「函館市内のアイヌ資料の所在」, 国立民族学博物館共同研究会「国立民族学博物館の資料収集活動に関する研究—創設後50年のレビュー—」（1月10日）

コラムリレー

- 内田彩葉「戦後80年 太平洋戦争と函館」（7月14日）
- 大矢京右「戦争と民族資料」（1月5日）
- 高柳美咲「『講談社の絵本』にみる戦争の時代」（1月12日）

印刷物発行

- 市立函館博物館編 2025 『知られざるオホーツク海

先史文化紀行』 ※令和7年7月1日発行 36頁

- 市立函館博物館編 2026『市立函館博物館 研究紀要』36. ※令和8年3月31日発行 83頁

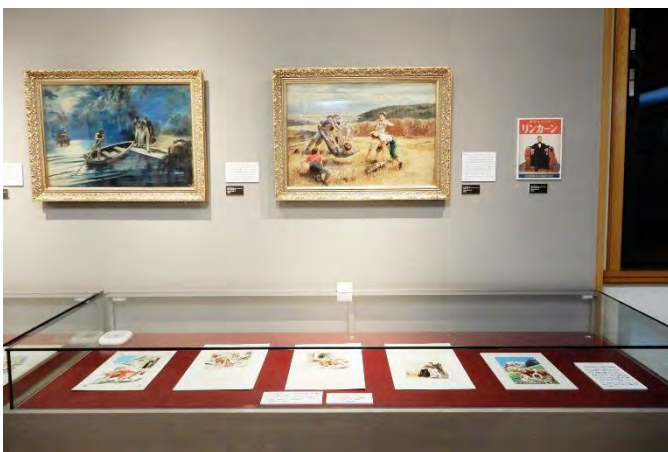
研修参加等

- 令和7年度アイヌ政策推進交付金地域説明会（4月22日）参加（黒田・熊谷・大矢）
- 令和7年度リモートラーニングによるデジタル人材育成のための基礎研修（9月）修了（全職員）
- 生成AI研修（12月23日）参加（高柳・三浦）

一連携・協力事業等

共催・協力事業

- 函館市戸井西部総合センター「戸井地区文化財展示」（平成28年4月5日～）「戸井の板碑」他計94点展示
- 函館市恵山コミュニティセンター「恵山町の縄文と世界遺産」（令和3年7月28日～）「円筒土器」他計39点展示
- 公立ほこだて未来大学「ロケーションベース型ARを用いた博物館鑑賞支援システムの構築研究」（令和5年～）研究協力
- 公益社団法人北海道アイヌ協会主催「第38回アイヌ民族文化祭2025」（令和7年8月30日）協力
- 函館市文学館「梁川剛一コーナー」（令和7年10月9日～）「リンカーン」他計21点展示
- 函館アイヌ協会主催「第10回函館イチャルパ」（令和7年10月11日）後援・協力



展示替えした文学館梁川剛一コーナー

資料貸出

- 函館市北洋資料館常設展（平成2年4月1日～）「北洋用漁業関係資料」約900点展示
- 函館市縄文文化交流センター常設展示（令和7年4月1日～令和8年3月31日）「戸井貝塚出土資料」他計112点貸出
- 函館市消防本部「市民防災教育展示」（令和7年4

月1日～令和8年3月31日）「消防ポンプ車」他計3点貸出

- 箱館奉行所常設展示（令和7年6月1日～令和8年3月31日）「エンフィールド銃」他計14点貸出
- 東北放送株式会社他主催「世界遺産 縄文」（令和7年7月12日～令和8年3月8日）「動物形土製品」貸出
- 国立アイヌ民族博物館主催「ウィーン万国博覧会とアイヌ・コレクション」（令和7年7月5日～11月16日）「幣冠」他計51点貸出
- 北海道博物館主催「新選組永倉新八と会津藩士栗田鉄馬」（令和7年7月19日～9月15日）「箱館大戦争之図」他計6点貸出
- 福山城博物館主催「阿部正恒と箱館出兵ー最後の幕臣榎本武揚、そして土方歳三ー」（令和7年10月4日～11月24日）「書翰」他計8点貸出
- 石川県九谷焼美術館主催「九谷赤絵の極致ー宮本屋窯と飯田屋八郎右衛門の世界ー」（令和7年12月20日～令和8年6月28日）「人物瑞獣図鉦鉢」貸出

資料調査・取材対応

- | | |
|-------|-----|
| ■自然資料 | 2件 |
| ■考古資料 | 12件 |
| ■歴史資料 | 5件 |
| ■民族資料 | 12件 |
| ■美術資料 | 6件 |

資料利用(掲載等)許可

- | | |
|-------|-----|
| ■自然資料 | 1件 |
| ■考古資料 | 18件 |
| ■歴史資料 | 51件 |
| ■民族資料 | 21件 |
| ■美術資料 | 12件 |

会議出席

- 2025年度北海道博物館協会第1回役員会（5月9日）オンライン出席（黒田）
- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会第1回役員会（5月22日）出席（黒田・福田）
- 令和7年度第1回「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会（5月27日）オンライン出席（大矢）
- 北海道博物館協会第2回役員会（7月3日）出席（黒田）
- 第63回北海道博物館大会（7月4・5日）出席（黒田）
- アイヌ政策推進ネットワーク会議（8月5日）オンライン出席（熊谷・大矢）
- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会第2回役員会（8月21日）出席（黒田・福田）
- アイヌ遺骨及び副葬品の慰霊施設における鎮魂式

(10月12日) 出席 (黒田)

- 令和7年度第2回「アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク」運営委員会 (11月6日) オンライン出席 (大矢)
- 北海道博物館協会第3回役員会 (12月12日) オンライン出席 (黒田)
- 道南ブロック博物館施設等連絡協議会第3回役員会 (12月23日) 出席 (黒田・福田)

— 博物館短信 —

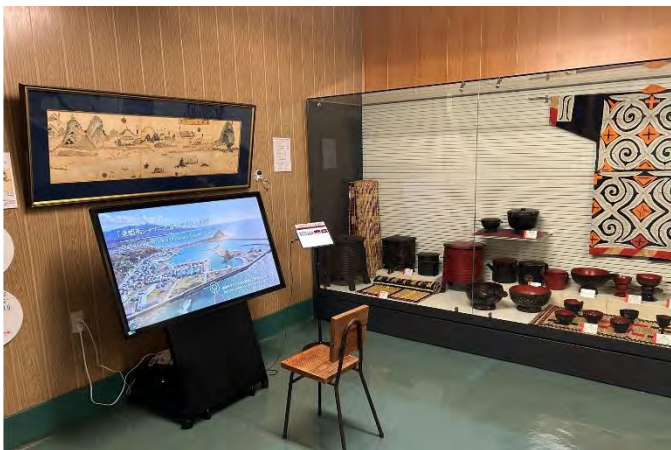
ひとつぼミュージアムの展開

「ひとつぼミュージアム」とは、資料の高精細画像と、それを基にした複製資料や実物資料等を複合的に展示する試みのことです。令和7年度は「刀装具展」(令和6年4月27日～令和7年6月22日) および「サムライ絵師、江戸を描く! 「江戸風俗十二ヶ月揃」展」(令和7年7月1日～令和8年6月28日) を開催しています。



「サムライ絵師、江戸を描く! 「江戸風俗十二ヶ月揃」展」開催状況

アイヌ施策先進地調査の実施



地域計画に基づき整備された様似郷土館内

令和元年にアイヌ施策推進法が施行され、各市町村にはアイヌ施策推進地域計画の策定が求められています。当館でも計画策定を見据えて様似町で先進地調査

を実施し、事業内容はもとより、地域のアイヌの人々と連携して事業を推進することの重要性について認識することができました。調査を受け入れていただいた様似町の皆様には感謝申し上げます。

イノベートミュージアム事業

令和6年から当館はミュージアム「表現・創造」プロジェクト実行委員会に参画し、イノベートミュージアム事業「ミュージアム「表現・創造」プロジェクト」を実施しています。これは博物館が利用者にとって受け身の鑑賞の場ではなく、利用者の視点で主体的に表現する場として捉えなおすことで、若者が地域の歴史や文化を主体的に理解し共感できる場をデザインすることができるという考えのもと、博物館を活動の基地として、市民と博物館の協働により資料や文化財についての理解を深めるための表現・創造活動を行うものです。

事業では、市民や学生との協働により、博物館への来館者誘導やミュージアムグッズの制作などについて検討を進めました。



イノベートミュージアム事業成果報告会

博物館実習の受入



施設見学の様子

令和7年9月2～13日に館務実習生として、12名の受け入れを行いました。実習期間中は市内の北方民族資料館、文学館、郷土資料館の3館で施設見学を行ったほか、

収蔵資料の整理や、カルチャーナイト・旧函館博物館1号公開といったイベントの事前準備から当日の来場者対応まで、多様な博物館活動を経験しました。

銃砲刀剣類登録審査

当館では博物館資料として銃砲や刀剣を多数所蔵していますが、それらの中でも資料的な価値が未確認であった10点について、北海道銃砲刀剣類登録審査会に諮りました。結果、欠格となった2点以外は資料的な価値が認められ、なかでも1972年に寄贈されたシャープス銃は非常に価値の高いものとして審査員の激賞を受けました。



シャープス銃 (資料番号 500569)

アイヌ協会による市長表敬訪問

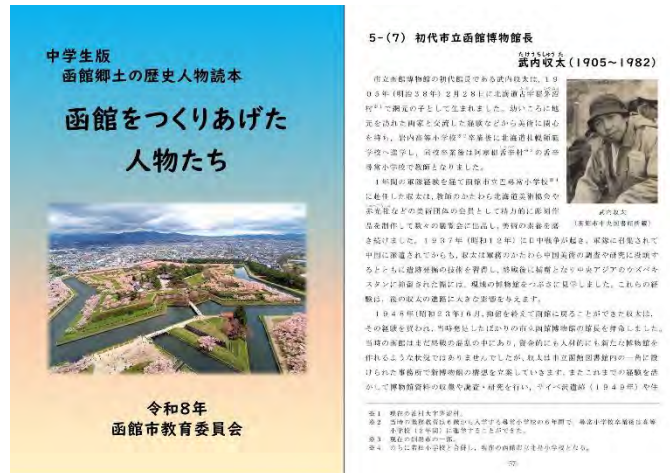
令和8年1月30日、公益社団法人北海道アイヌ協会の大川勝理事長と函館アイヌ協会黒島均会長ら6名が、大泉潤函館市長を表敬訪問しました。懇談では函館市における多文化共生や函館市とアイヌ協会との協力体制強化の他、アイヌ政策推進交付金の活用等について、終始和やかな雰囲気で見意見交換がなされました。



北海道アイヌ協会理事長・函館アイヌ協会会長との記念撮影

中学生歴史副読本

函館市教育委員会では令和8年3月に中学生向けデジタル副読本「函館をつくりあげた人物たち」を刊行し、掲載された30人の先人のうち、初代博物館長武内収太ら10名分の原稿を博物館学芸員が執筆しました。デジタル副読本は市内の中学生の学習用端末に配信され、郷土学習等において活用される見込みです。



歴史副読本の表紙と武内収太のページ

令和7年度職員構成等

館長

黒田育生

管理担当

- 熊谷正 (主査)
- 三浦正志
- 浜口哲一
- 亀田匡一 (会計年度任用職員)
- 汲田充洋 (会計年度任用職員)

学芸担当

- 福田裕二 (主査、考古)
- 大矢京右 (主査、民族・自然・博物館史)
- 小林 貢
- 高柳美咲 (美術・民俗)
- 山本泰子 (会計年度任用職員)

図書館郷土資料担当

- 河上有加 (主査)
- 水島弘美
- 内田彩葉
- 奥山麻央 (会計年度任用職員)
- 宮井七彩 (会計年度任用職員)
- 上山陽菜 (会計年度任用職員)

SARANIP—サラニップ—No. 65

編集・発行 市立函館博物館

〒040-0044

北海道函館市青柳町17 番1号

TEL:0138-23-5480 FAX:0138-23-0831

E-mail:hakohaku@city.hakodate.hokkaido.jp

HP : http://hakohaku.com/

—誌名SARANIP(サラニップ)—

アイヌ語：樹皮を編んで作った袋

博物館情報や研究成果などをSARANIPに入れておき、その蓄積が今後重要な資料となっていくようにと命名したものです。